



## 「低温やけどについて」

こんにちは。大間病院で勤務しております医師の村井正隆です。

これから冬が到来し、寒くなる季節ですので湯たんぼなどの暖房器具を使用する方が多くなると思います。それに伴い、低温やけどを起こす人も増えてくるのが予想されます。今回は「低温やけど」についてみなさんと一緒に知識を深めることができれば幸いです。



「低温やけど」とはそれほど高熱ではない暖房器具でも、長い時間接触することでやけどと同じように皮膚にダメージが生じた状態です。一般に60℃以下の熱源によって起こるやけどのことをいいます。

低温やけどの原因には湯たんぼのほかにも使い捨てカイロや電気こたつ、電気毛布、電気カーペット、ファンヒーター、ストーブなどが代表的なものです。

低温やけどの発生には皮膚にかかる温度とその温度に接している時間が関係しています。44～51℃の範囲では、温度が1℃上昇するごとにやけどになるまでの時間が半分になるという報告があります。例えば45℃なら3時間、46℃なら1.5時間で低温やけどを起こ

す可能性があります。

続いて主な暖房器具の表面温度についてです。55～70℃の湯を入れた湯たんぼの表面温度は45℃以上、携帯カイロの表面は50～60℃、ストーブの熱源から20cm離れた場所では45.5℃、こたつの熱源直下は61℃という報告があります。もちろん設定温度による違いがありますので一概には言えませんが、上記の報告から低温やけどは意外と生じやすいことがお分かりいただけるとと思います。

多くの方は低温やけどにいたる前に「熱い!」と感じて温度や距離を自分で調整することが可能です。しかしながら、認知症のある高齢者、脳梗塞後、後遺症や糖尿病で感覚が鈍くなっている患者、睡眠薬で深い眠りについている方、泥酔状態の方は、知らず知らずのうちに低温やけどに陥ってしまう方が多くいらっしゃいます。上記の方々はより一層の注意が必要です。

これからの季節は暖房器具が欠かせないものとなりますが、適切な温度管理も重要となります。万が一、身に覚えのない発赤やヒリヒリとした痛みを伴う発赤に気づき、「低温やけどかな?」と思ったときにはすぐに大間病院を受診しましょう。



## 大間病院からのお知らせ

現在、大間病院では、外来が混雑している時間帯の電話予約対応で外来診療に支障をきたしています。

そこで、令和元年11月1日(金)から外来診療予約を以下のように変更します。

**\* 電話予約受付時間を設定します。**

午後1時30分から午後4時までの受付とします。

**\* 翌日以降の予約のみとし当日の午前・午後の予約は受付しません。**

当日の急病には対応しますので、電話などでご相談くださるようお願いいたします。

ご不便をおかけして申し訳ございませんが、ご理解とご協力のほどよろしく願いいたします。なお、ご不明な点がございましたら大間病院にお問合せください。

**【お問合せ】** 国民健康保険 大間病院 ☎37-2105